

じそんのかね

自尊の鐘



韮崎西中学校 学校だより

2019.11.19. NO19

発行責任者 校長 秋澤英俊

「人を敬い、いつくしみ、自らをたつとび高める」、校訓『敬愛自尊』のもとに、毎朝鳴らされる「自尊の鐘」。今日をどのように過ごし自分を高めていくのか、鐘の音を聴きながら「理想をめざし日に進む」(校歌)、生徒たちの成長の姿をお知らせします。

結唱～仲間とともに最高の合唱を～ -伝統と想いをつなぐ合唱祭-

令和元年の合唱祭が終わりました。今年も伝統は受け継がれ、文化ホールには生徒達の歌声があふれました。当日までそれぞれの学級・学年で、どのような表現をめざすのか、またどのような気持ちで取り組むのか、明確な目標を持ち取り組んできました。その結果、それぞれの学級や学年の個性がしっかりと出され、学年が上がるにつれて表現力にも磨きがかかり、今年も合唱祭の伝統はしっかりと繋げられたのかなと思います。参観された保護者の皆様はどう感じたでしょうか。

1年生は、初めての合唱祭でした。アカペラに挑戦し合唱への心構えと歌う気持ち、そしてそのパワーの片鱗を見せてくれました。「残酷な天使のテーゼ」を懐かしい思いで聞かれた保護者の方も大勢いらっしゃったのではないかと思います。

2年生の学年合唱は「航海」、遠い昔の邪馬台国の風景が思い浮かぶような合唱で、昨年よりも数段表現力が増し、来年の最上級生としての合唱がどのようになるか楽しみでもあり、きっとすばらしいものになると予感させられる演奏でした。

そして3年生、曲は「群青」、演奏が終わった後の楽屋で、講師の星ひろ美先生も「感動して涙が出そうになった」と話してくださいました。3年生は、114名という全校でいちばん少ない人数です。それでも、これまで最上級生として全校を引っ張ってきました。昨年の3年生の背中を追いながらも、自分たちなりの3年生としての姿を、仲間とともにつくってきたその思いがあふれ、聴く人の心に響くすばらしい演奏でした。

どの学年も、めざすものを明確に持ち、その中で進めてきた合唱祭の取組、伝統はこうして創られ、受け継がれていくのだと改めて気づかせてくれた合唱祭でした。今年も学区小学校6年生児童を含め434名の保護者や地域の皆様に参観していただきました。厚くお礼申し上げます。

秋晴れの空のもと、芸術の秋、実りの秋にふさわしいひとときとなりました。



